



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宇部市立小野小学校 小学生1年4名、2年生3名、3年生2名、 4年生6名、5年生3名、6年生7名 合計25名 教職員10名、地域住民、保護者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育、道徳) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	○ 夢、希望に向かって、困難なことにも負けず、やりぬくことの素晴らしさを知り、向上心と自己表現力を培う。 ○ 児童の運動能力の向上と、日頃経験することの少ない運動種目(ハードル走、ボッチャ)に関する興味関心の向上を図る。 ○ 上記目標に対する学校の取組を地域・保護者へ啓発し、オリパラ教育及び運動への関心・意欲の向上を図る。
5 取組内容	1. オリパラへの関心を児童に持たせる。 (1) 昨年度のオリパラマスコット選出に全校児童で参加 (2) I'm POSSIBLE 内の映像及びクイズの活用  導入として、リオパラリンピック大会ダイジェストの映像を見せ感想を交流させた。児童からは、「とても楽しそう」「つらいことも多いだろうに、なぜがんばるのか」などの感想があった。その後、パラリンピックに用いられる用具の写真を用いてのクイズを行なった。その場では答えを告げず、次の日に校内に掲示することで、関心の継続を図った。 

2. 元オリンピック選手成迫健児に学ぶ会

「夢、希望に向かって、困難なことにも負けず、やりぬくことの素晴らしさを知り、向上心と自己表現力を培う。」目標に対して、元オリンピック選手成迫健児氏に来校していただき、講話、実技指導を行なった。

(1) 講話



参加者は一同に、日頃見聞きすることのないオリンピック選手の練習の様子やオリンピック会場での様子に興味津々でお話を聞いていた。質問タイムでは、オリンピック選手の食べ物のことや日頃の生活の様子など、様々な質問があったが、成迫選手には一つ一つ丁寧に答えていただいた。

(2) 実技指導（ハードル走）

①準備運動

②ハードル走実技指導

- ・児童一人ひとりが、ハードル走を行なう。
- ・成迫氏が、児童一人ひとりに実技指導を行なう。

③模範演技

- ・成迫氏による、実際の高さのハードルを用いての模範演技を披露。



運動場で、実技指導を行なった。地域・保護者の参観もあり、参加者全員興味津々で受けていた。

児童からは、できることもできないこともあったけど、だんだん楽しくなった」「体育の時間にもやってみたい」「応援しているので、成迫選手にオリンピックで活躍してほしい」「(成迫さんのお話を聞いて)自分のよいところをのばしていくことが大切と分かった」「毎日少しずつでも続けることが大切ということが分かった」などの感想があった。

教職員からは、「さすがオリンピック選手。指導がうまい」「ハードル走の指導のポイントがよく分かった」などの感想があった。

3. ボッチャを通じての取組

(1) 小野地区老人クラブとの運動会

本校では例年、地区老人クラブの方々の運動会に児童が参加し、競技をさせていただいている。本年度は、させていただきだけでなく、児童が老人クラブの方々の支援者となり、「ボッチャ」を行なった。

この取組を行うにあたって、事前に5・6年生と担当教員とでコートづくり、実技方法、ルールの確認などを行なった。ルールについては、判定が簡単であり分かりやすいことを重視し、簡単なものにした。また、イスに座って投げることで、体の不自由な方の思いを体験させたいと考えた。



始めは、戸惑っておられたお年寄りの方々も、次第に楽しんで取り組んでおられた。児童は、イスに座って投げることの不自由さに驚くとともに、次第にどうすればよいかを身につけていった。また、お年寄りの方々との交流を深めることができた。児童にとって相手の立場に寄り添い、思いやりの心をもって接することのできるよい体験となった。

(2) 他校の児童との交流会

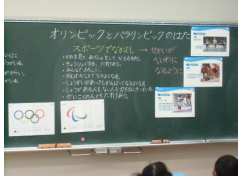




小規模校である本校は、近隣の小規模校2校と合同学習を行なっている。この場を活用し、他校にもボッチャを広めるために、1・2年生が他校1・2年生との学習にボッチャを行なった。



手軽に体験できるボッチャであり、児童はやり方をすぐに理解し、楽しんでいた。他校の教員からもぜひ授業に取り入れて実践してみたいとの声があった。

4. 道徳での学習を通して

各学年で、道徳の時間に指導を行なった。

	<p>学年児童の成長実態に応じて、オリンピック・パラリンピックのもつ意味、参加する人々の願い、それを見守る回りの人々の思いなどに視点をあてて行なった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">＜1・2年生道徳の授業風景＞</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ I'm POSSIBLE の活用による関心の向上 I'm POSSIBLE 内の動画映像や写真は、児童にとって大変に興味深いものであったようだ。導入での活用は、大変に効果があると思われる。 ○ オリンピック出場選手を迎えて <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック出場選手による講話や演技を間近に見たり、直接指導を受けたことで、日頃、体験することのないハードル走への興味・関心が見られた。「また、やりたい。」「体育の時間にやってみたい。」など、児童の声があった ・成迫選手を応援する子もおり、オリンピックへの関心が高まった。 ・体育学習で指導する高学年担任だけでなく、全ての教職員が、指導のポイントとなる動き、練習方法を学ぶことができた。 ・地域の方々も、プロの人の動きを参観し、知ってはいてもあまり体験することのなかったハードル走への関心が高まった。 ○ 「ボッチャ」への取組を通して <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、これまでもお年寄りとの交流があったが、そのほとんどが受け身であった。今回、児童が主体となることで、お年寄りへ積極的に関わる気持ちが芽生えてきた。 ・「ボッチャ」という競技を通して、競技を楽しみながらも、体の不自由な方々の気持ちが少しは理解できたようである。 ○ 他校の児童との交流学习における実践において <ul style="list-style-type: none"> ・実践したことのない学校へボッチャを広めることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ I'm POSSIBLE の活用之际して <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に I'm POSSIBLE を活用した教員の感想から、全教職員の取組への意識の向上を図った。 ・全教職員へ取組みについてのプリントを配布し、共通理解を図った。教職員からは、各教科の年間指導計画にある内容に当てはめて実施するとよいという意見が出された。(主に、体育、道徳、英語学習、総合学習など) ・I'm POSSIBLE 収蔵の映像や写真を活用し児童の興味関心を高めた。 ○ 環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・全体での I'm POSSIBLE による指導後、写真やクイズを掲示した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">・学校図書館等支援員の協力を仰ぎ、廊下にコーナーを設けた。</p>



- 外部指導者との詳細な打合せと地域への広報
 - ・成迫氏来校までに、1'm possible を用いて、オリンピック、パラリンピックについての事前指導を映像とクイズ形式で行い、児童の興味関心を高めた。
 - ・成迫氏とは、メールを活用し、トークの内容、実技指導時の準備物、当日の運営等、事前の連携を綿密に行なった。
 - ・講話の場として室内を、実技指導の場として運動場を設定した。
 - ・本会には、地域・保護者への啓発も行なった。事前に、校区内全戸を対象として広報紙を配布した。また、前日の夕方と当日の朝には、校区内の放送施設を利用し、開催を伝え、参加をお願いした。
- 外部団体との交流において
 - ・外部団体（老人クラブ）との交流に際しては、事前に打ち合わせを行ない、ボッチャの実施を依頼しておいた。また、当日の実施に向けて、5・6年生児童に、ボッチャのルールややり方を体験させ、当日のお世話役を担えるようにしておいた。

8 主な課題等

- 単発の指導ではなく、身近に同様の指導者が、数回にわたり指導していただける機会があると、児童の意欲も更に向上すると思う。
- 成迫選手を招いての会は、授業日であることから平日実施となった。週休日等、一般の休みの日に実施すれば、もっと多くの地域、保護者の参加が得られたと思う。
- 外部人材の活用について、本年度は県の支援を得て実施できた。しかし、単独校で毎年招聘することは予算的に無理である。身近な人材をリスト化することができればよいと思う。

9 来年度以降の実施予定

- 各教科、領域の学習年間計画にオリンピック、パラリンピックについて学習できる内容を位置づけ、新学年となる児童へも継続して指導していきたい。
- 老人クラブとの交流では、来年度もボッチャを実施したい。